学校番号	T1202

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学特訓	単位数	１単位	年次	２～４年次
使用教科書	特になし						
副教材等	自主制作教材・プリント						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・中学校数学までで学習した内容を確認し、それを基に数学における基本的な原理・法則の体系的な理解を深めます。
・第１回授業時にファイルを配付します。授業プリント等を整理し、各自復習に用いましょう。
・授業はプリントで学習し、知識の定着を図ります。問題に取り組む際は、ただ答えを求めるだけでなく、途中式や考え方も書くようにしましょう。授業プリントは実施ごとに回収し、評価の対象をします。毎回しっかりと取り組みましょう。
・単元ごとの「パフォーマンス課題」や学習の振り返りをするために「振り返りシート」を記入してもらいます。記述内容や課題の取り組み具合はすべて評価の対象をします。しっかり取り組みましょう。
・授業への取り組み状況も評価の対象となります。遅刻や結果をせず、しっかりと出席しましょう。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
・数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】
・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を養う。また、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や欠課を批判的に考察し判断したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】
・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。	・日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。	・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	数と式	計算の基本 単項式と多項式 多項式の加減乗除 展開 因数分解 １次方程式 不等式	a: ・正の数、負の数の加法、減法、乗法の計算ができる。 ・四則の混じった計算の優先順位にしたがって計算できる。 ・多項式の同類項をまとめ、次数の大きい順に整理することができる。 ・指数法則や分配法則を用いて、多項式の乗法の計算ができる。 ・展開因数分解の公式を利用できる。 ・方程式における解の意味を理解し、１次方程式を解くことができる。 ・不等式の性質を理解している。 b: ・四則が混じった計算の優先順位を正確に判断できる。 ・ある数量について、文字を使った式で表現することができる。 ・式の展開と分配法則の関係を考察することができる。 ・たすき掛けの仕組みを理解している。 ・数量の大小関係を式で表現することができる。 ・不等式の性質を、数直線上の点と対応させて考察することができる。 c: ・単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち，考察しようとする。 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。 ・不等式の性質について、等式の性質と比較して、考察しようとする。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

	2次関数	関数 １次関数のグラフ ２次関数のグラフ	a: ・関数の値を求めることができる。 ・座標について理解している。 傾きと切片に着目して、１次関数のグラフをかくことができる。 ・座標について理解している。 傾きと切片に着目して、１次関数のグラフをかくことができる。 b: ・２つの数量の関係を関数の式で表現することができる。 ・関数を表、式、グラフによって考察することができる。 ・関数を表、式、グラフによって考察することができる。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート
後期	図形と計量	直角三角形 三角比 三角比の利用	a: ・直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる。 ・直角三角形において、正弦・余弦・正接を求めることができる。 ・三角比を利用して、直角三角形の辺の長さを求めることができる。 b: ・測量の問題に三角比を活用することができる。 c: ・直接測ることのできない距離を求めることに関心をもつ。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

	場合の数と確率	順列 組合せ 事象と確率 確率の計算 独立な試行と確率	a: ・順列の意味を理解し、公式を利用することができる。 ・組合せの意味を理解し、公式を利用することができる。 ・確率の定義を理解し、簡単な確率を求めることができる。 ・表や組合せの考えを活用して、確率を求めることができる。 ・排反事象や余事象の意味を理解し，確率を求めることができる。 ・独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 b: ・となりあう場合の順列のような、特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・ものごとの起こりやすさを、同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。 ・排反事象や余事象の確率などを利用して、複雑な事象の確率を考察することができる。 ・独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 c: ・様々な場合の数を求めるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ・組合せの考え方を利用して、図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求めようとする。 ・ものごとの起こりやすさを、数値を使って計算で求めようとする。 ・これまでに学んだ確率の性質を利用して、いろいろな場合の確率を意欲的に求めようとする。 ・独立な試行の確率について、興味をもって求めようとする。	考査 小テスト	考査 パフォーマンス課題	授業観察 ワークシート 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度